

平成15年7月
18日・19日・20日

第33回
日本口腔インプラント学会
総会・学術大会

第24回 日本口腔インプラント学会
中部支部総会併催

抄 録 集

渡辺 邦夫

大会長 蒔 田 眞 人

主管：日本口腔インプラント学会中部支部

頬骨下稜とパノラミック無名線

○青島公彦¹⁾，高橋常男²⁾，渡辺孝夫³⁾
水沼秀之¹⁾，川股亮太⁴⁾

神奈川県歯科大学口腔外科第2講座¹⁾

神奈川県歯科大学口腔解剖学教室²⁾

鶴見大学歯学部第1口腔外科学教室³⁾

神奈川県歯科大学歯科放射線学教室⁴⁾

I. 目的

頬骨下稜はサイナスリフト（上顎洞底骨挙上術）術野に現れる解剖学的構造で，我々は，骨窓の位置を決める際などに，これをランドマークとして用いている．一方，パノラマX線写真で頬骨下稜を示す構造としてパノラミック無名線がある．本研究は，乾燥頭蓋骨を試料とし，頬骨下稜とパノラミック無名線との対比を行った．

II. 方法

神奈川県歯科大学口腔解剖学教室所蔵のヒト成人乾燥頭蓋骨19個を使用した．方法は乾燥頭蓋骨の上顎骨頬骨突起下縁アーチの上端部（下に凸）を基点として，そこから下方に頬骨下稜の頂部に線を引き，そのまま歯槽骨突起，歯冠まで延長し，上方は基点より上方に頬骨の前頭突起まで延長線を引き，これを下稜頂線とし，約2mm大の鉛粒を点線状に貼付した．眼耳平面と下稜頂線との角度，および下稜頂線上の歯式を記録，次いで，同試料をパノラマX線撮影装置（シーメンス社製OP-5型）に標準位で装着し，パノラマX線写真上の鉛粒線で表現された下稜頂線とパノラマ無名線と対比を行った．

III. 結果

下稜頂線は眼耳平面に対して，平均 80.1° ，すべての症例で後方にやや傾斜していた．臼歯部有歯顎について下稜線上にある歯はすべて第1大臼歯であった．さらに，下稜頂線は，大部分がパノラマ無名線と重なった．

IV. 考察および結論

頬骨下稜はサイナスリフト，術式のランドマークとして有用と思われた．